

# バス停タイムス

2013年11月7日

No.16

発行者

成田隆浩

編集者

教宣部

JR東海労働組合新幹線地方本部

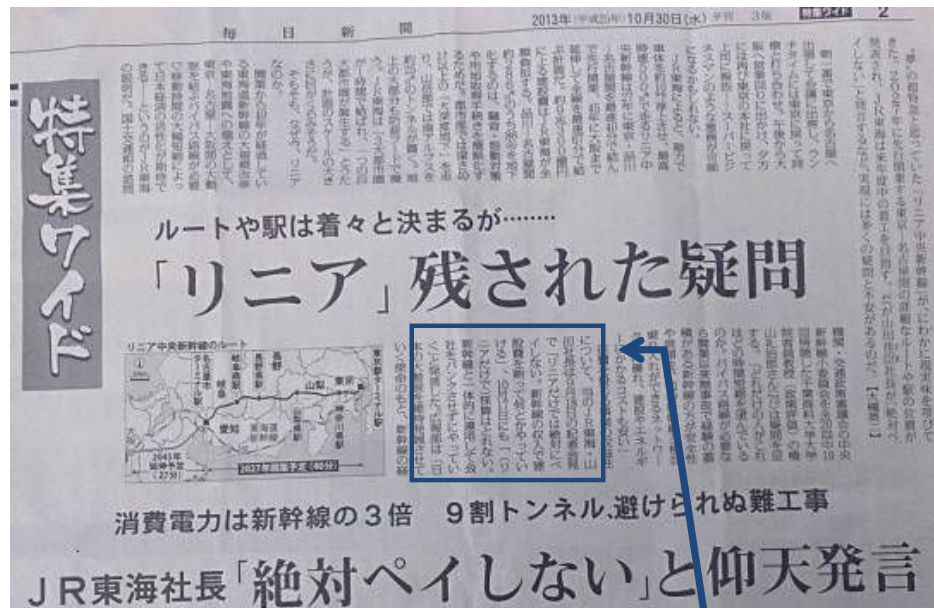
## リニア中央新幹線はペイしない!! 山田社長が仰天発言!!

2013年9月18日、JR東海は、2027年に東京～名古屋間で開通が予定されているリニア中央新幹線について、駅の場所や詳細なルート of 最終的な案を発表しました。

しかし、私たちJR東海労がこれまで指摘して

きた①安全性②経済性③環境問題など依然として問題は山積しています。

最近、JR東海の山田社長はリニア中央新幹線の収益問題について「採算はとれない」と言い切っています。採算がとれない事業を推し進めることについて経営者としての矛盾はどうするのでしょうか？



JR東海・山田社長は9月18日の記者会見で「リニアだけでは絶対にペイしない。新幹線の収入で建設費を賄って何とかやっていける」、10月17日にも「リニアだけで採算はとれない。新幹線と一体的に運用して会社をパンクさせずにやっていく」と発言した。

## 採算のとれないリニアの建設・営業の中止を!!

JR東海労は、社長の「採算はとれない」という発言の真意の説明を求めて会社に対して労使協議するように申し入れました。

採算のとれないリニアを建設し、その営業主体になるということは、JR東海の経営それ自体を危機にさらすということです。そして、現場で額に汗して働く社員と、協力会社の社員にもその影響が確実に及ぶことになります。

採算のとれないリニア建設は、直ちに中止するべきです。

今こそ「撤退する勇気」を山田社長に求めます!

# 会社の対策おかしくない？

最近、JR東海本体と協力会社で異常ともいえる労務管理が横行しています。特に、会社が打ち立てる「対策」が対策ならざる対策になっていて、現場労働者の不満が鬱積しています。しかし、会社はそんなことはお構いなしに私たちに「対策」の実施を強いています。

## おかしい対策① 「台風26号対策」

今年10月に発生した台風26号は、首都圏にも大きな影響をもたらしました。この台風26号接近にともなって、JRでは、乗務員や車両基地の地上勤務者の確保のために職場に宿泊できる体制をとりました。また、協力会社各社も社員の確保のために同様の対策をとりました。

公共交通機関として災害対策で宿泊体制をとることはあり得ることでありますが、車両所では、毛布を渡されて新幹線の車内に押し込められるというお粗末なものでした。しかも、JR本体でも協力会社でも一部の管理者から社員に対して「明日台風で交通機関が麻痺する。これだけ報道されているから、遅刻や欠勤をしたら始末書を書かせる。」と告げられた事実が判明しました。

台風対策を社員に対する圧力になって良いはずがありません。

## おかしい対策② 「階段は使わない」

今年9月に大井基地の検修庫で新幹線メンテナンス東海（SMT）の社員が作業現場の階段から転落するという労働災害が発生しました。

この労災の「対策」が“SMT社員は階段を使わない”というものです。事故から学び本質的対策を立てるのではなく、現実から逃避する「対策」でしかありません。

JRの社員が使っている階段は、SMTの社員にとってだけ危険だとでも言うのでしょうか!?

## おかしい対策③ 「点呼場の変更」

今年10月のある日、東京仕業検査車両所の終業点呼時に点呼をとる助役が制服の上着を着ないでシャツ姿で点呼場に出場してきました。この助役は、8時30分の終業点呼の約1分前に、自らが服装の整正の要件を満たしていないことに気付き、制服を着るために点呼場から去りましたが、制服を着て戻った時にはすでに8時30分の終業を告げるチャイムが鳴り終わっていました。これは、点呼の不成立です。

この事件に対して会社のとった「対策」は、6F点呼場で行っていた終業点呼を5F当直の執務場所で行うというものです。管理者のミス进行现场労働者に転嫁する典型です。



連絡先(新幹線地本) 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-6-5 TEL03-3201-0350  
ホームページアドレス <http://www.geocities.jp/jrcushinkansen2/right.html>  
メールアドレス [jrcushinkansen@yahoo.co.jp](mailto:jrcushinkansen@yahoo.co.jp)